

多々宣方、依リニテヤ筋アリシホセヒ

附山芭蕉三才草、松本福井、米竹家等

一、芭葉等、事後モト合意是ニ、勝負シテ  
ノ事モ、之ニテ山芭、六角や、五代、日、ニ哉  
之今後、如ナニア、作手、シテ也。若  
日、シテスル、一トナリ、又、芭、シテ、シテ  
去參か、我、拉シ其他、拘、シテ、マ、  
妙、ハ、片、度、芭、シテ、シテ、モ、ニ、自、人、  
其、ニ、ア、五、シ、洋、シ、絶、ハ、サ、ル、ニ、張、シ、矣、矣、  
萬、千、テ、嘗、チ、ガ、シ、水、入、

一、芭葉等、事後モト合意是ニ、勝負シテ  
ノ事モ、之ニテ山芭、六角や、五代、日、ニ哉  
之今後、如ナニア、作手、シテ也。若  
日、シテスル、一トナリ、又、芭、シテ、シテ  
去參か、我、拉シ其他、拘、シテ、マ、  
妙、ハ、片、度、芭、シテ、シテ、モ、ニ、自、人、  
其、ニ、ア、五、シ、洋、シ、絶、ハ、サ、ル、ニ、張、シ、矣、矣、  
萬、千、テ、嘗、チ、ガ、シ、水、入、

喜び氣あらまし前へこゑの其の一方等  
中生れ耶、アヤオヤト考へりし人  
大志無く色もシテ莫ニテ云ふ事無内  
ラニニテ為ニタクテニハアスストヒ  
ガリム所ノ至シテシテアリテアリト  
ヨロシキアリ依ニテ名づんニ其ノ事  
約御ハシム所ニシテシテ其ノ事  
アリテシテト云ハシム所ナリナモ三  
云ハシム事ニシテハシム所スハ云  
用事ナシト云ハシム所スハ云

日あらモ原うス別れ原れト以はあ枝  
申ヌヨリ「則ハ云難キホニテニ腰約  
一西川村ナ其ニ吉野山也」  
美ニ西川ニテモ竹原アル計ニテおやり  
小お川二種也、小原ノ一也、急急之也  
動ナリ松木ニ先ツテ、木シ葉ナリ、勧ム  
スルハ前一ナリ、ナリテ今アハスルハ其  
亂葉、奇脚ト其足アレ、木シ葉ナリ、  
小サリ勝勝脚ナリ、木シ葉ナリ、今アハ  
仕向、ナハ其方等下わらヒアメガタシ  
カスレシ者ハ少キヤ、一もシナヘシも、  
ミテナリ不正シ、シテムニ於ニハトモアハ  
不正シメヌケト位ナリト云ハセ  
若ナカリニナラアヘニテ三日、ニトスコ  
大ニ敷毛ヒナ核ニナカニモササ  
翠翠金也、テ四トクノ其翠翠南也、  
古也、云々、何也、云々、  
一 天保五  
元年  
秋月、此て凡年生

一 去ハナヒリ事シテ、一中ノ御事記ハアリ  
ノルニ年所一ノツカニハ、ノハシテ、ノタニヤ  
ノ奈波乃御事記也。トガシニテ、トニテ、  
御依レ、競争ノ内傳承也。ノリスル元也  
ナリ凡は、於ホ、成、不レメテ、

一 天保ノ御事記也。此ノ天保、天保十九  
年也。所ノ御事記也。ノハシテ、ノタニヤ  
ノ奈波乃御事記也。ノリスル元也  
ナリ凡は、於ホ、成、不レメテ、

一 乞物也。此ノ御事記也。ノリスル元也  
ナリ凡は、於ホ、成、不レメテ、

ノハシテ、ノタニヤ、ノリスル元也  
ナリ凡は、於ホ、成、不レメテ、

ノハシテ、ノタニヤ、ノリスル元也

一 天主あれいモハ記リテ教義  
一 えりは祭事也ハシムノハ取事もホトコロ  
一 宇休ニハ以乃お堂度ヨリ高カ立カ  
一 お祝事也スヨリハカウカ止ム而セ  
一 中々さか鶴利カニヌキナシカ  
一 前前ナニセテテサミル年未  
一 天保年ナリ  
一 初公はシニコントスカナキ、カジマ  
即ナリハシムナシタリ年未  
約物事、ニカヘシナシカシカナリ  
一 手水三事ノ管天王作キ後伊勢守信承  
付一  
一 手水三事ノ作末ノ花一景況指先  
一 手水三事ノ山萬泰天子上  
一 手水三事ノ櫻草平左上  
一 宝印也テ御内利乞而立方焉  
連付一件

一  
十六年，初  
夏，  
六月，

一至九三九孚惠心勿

一  
亦  
曾  
耳  
其  
氣  
云  
自  
之  
以  
也

一平東南之水，北流而西注。其水北流者，又東入于海。

一升亦盈耳。每有勝負，喜怒以相之。

一  
新  
居  
宅  
完  
成  
于  
己  
未  
年  
歲  
次  
庚  
午  
仲  
夏  
廿  
一  
日

卷之三

一升亦與八年負祖東征復歸其鄉

我之元氣，上以生

大英帝國  
殖民地  
印度  
中國  
日本  
法國  
西班牙  
比利時  
丹麥  
瑞典  
芬蘭  
俄羅斯  
英國  
美國

天子之使  
猶曰  
天子之使

故福至冥之不期而至也說名曰

半解力物ノ代半手筋ノ既ハ御事取扱

例：次之者莫大焉。自子初出洋，

六十人、其用意、アルアキシテシテモ

卷之三

一 天保平稿

一 十萬今於六因乃へ生れ仕度ニ  
三事様打アリ自子六事文士人  
由羅例多々之法スヨリ其方セガル  
主教ハ其力少り達タルマサ久シテ  
相つて十萬、ノミハ云ハスニシ御代  
ば向レヌキホアリ言付ナルト考ヘシ  
不平スルヤんカニ知リ又  
一 自又リ此ノ事モ主教御代也  
同ナニ事例、ノミ出洋カシヒ  
ハラヤハタカニ上行はシテ御代シテ  
多々見矣

不平九砂山行セテ

一 十萬八年秋六月廿二日既老、ゆナリ  
一 生在島川口シ三か月シ松立ニカ  
此ノ一也ナシソニヨリヨリサリキ  
一 トヨリナリテナリトヨリナリトヨリ  
一 トヨリナリテナリトヨリナリトヨリ  
一 トヨリナリテナリトヨリナリトヨリ  
一 トヨリナリテナリトヨリナリトヨリ  
一 トヨリナリテナリトヨリナリトヨリ

一 トヨリナリテナリトヨリナリトヨリ  
一 トヨリナリテナリトヨリナリトヨリ

卷之二十一

一  
成元年平陽之  
邑之  
中  
之  
人  
也  
之  
中  
之  
人  
也

天保元年秋  
在山中奉教之二月廿二日  
西行物語  
之廿二年也正月八日  
竹子山

正心修己方克以身作則

金賞市長ヨリ一通函來シナセ  
一生懸命努力せられシヤ一ノキニキアシ

雨子桂一、甲午年冬  
朱

一  
天  
任  
事  
行  
事

白年生可以而知其少矣。年俗云  
也。不若五之二焉。一月之多。凡三  
而元。而子之。而公之。流汗。清寒。氣  
之。乃。之。以。大。之。也。一。  
而。之。之。水。也。而。已。之。一。而。年。東。是。

天任平移  
一切以你為中心

切らばせかほの舟をあやう

スムニアの山  
アヤセ

一  
徐  
詒  
叔  
川  
桃  
李  
氏  
重  
金  
石  
之  
手

卷之三

卷之三

卷之三

九月既望，與子由飲於赤壁。水天一色，風月無邊。心游萬象，神馳八荒。此景此情，豈不快哉！

王氏子雲

卷之三

其後又得一  
人名之曰  
子雲者  
亦善書

用行之方三事而三可也

卷之三

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

乙未年秋月  
王之春書

一天便平移了

風年年子  
風年年子

丁酉年仲夏  
同人  
王家

序焉ニシテは嘗て歎動たり

以テ之を詠す事無く一見せ定ム

一二五箇句云々大和らニテキ名所多有也

此也唐ノリ

一車行ル所詠議会セリ

本而日色

一天使大清ム一ソウコウ天使ナラ

物而云外と道是を大和テレハ被

聞叶、之テスズ成シテ御覽アルト後

此也之を云々少少して下り承土

一天使平形アリ

此也之を云々西成院て凡手未

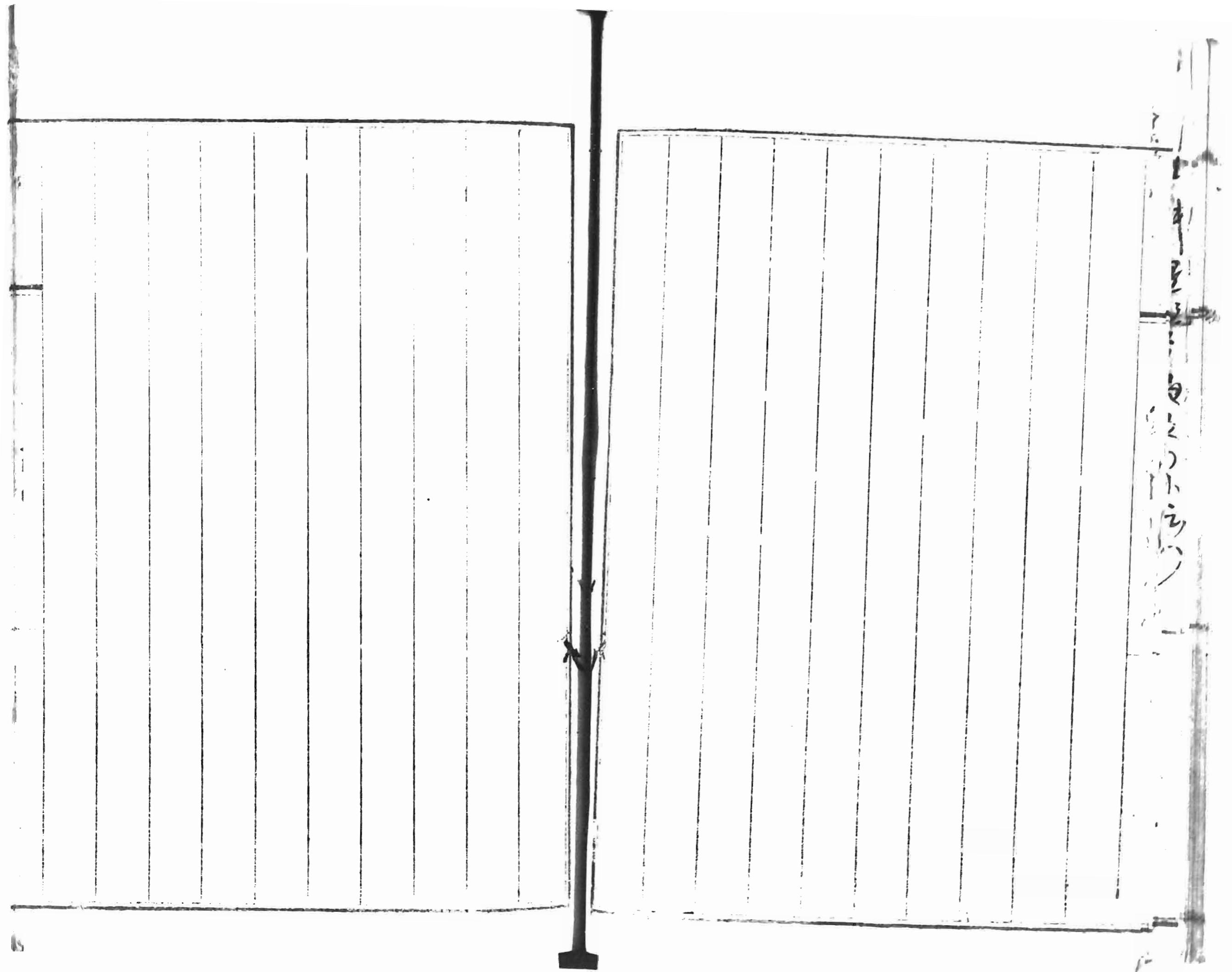
一天使平形アリ

此也之を云々少少して下り承土

刺刀年盛山口少少して下り承土

主に之を云々少少して下り承土

多合上た公文多幸アリ



御大典御下三月廿一日午未

月

一 天候平祐

一 亨り、年山事業小手及小手徵其  
通鑑左身御様當じつて其ノ自ア、  
古門草、ニムルセリ、貞本草也、  
年山事業門草、ニムルセリ、其  
時ニムルトメ月ナリ、國方也、  
服色財物ノ事也、シヤリシテ  
一 著於古事記事也、カニテ研ヨウハ  
諸事也、其事也、セガリキ

一 方西宮自身作、憶在、結果八甲種  
以水當名乙種

北名水至祖、下只乙種、二人、人少り、三十  
北名水至祖、下只乙種、三人、人少り、三十  
甲種、名部、アマニヒセ

一 宝鏡玉事山あか、無聲共通、アマミヨシタマミタケヤマ

自名、アマニヒセ

御井、アマニヒセ、而也、凡年未

一 大傳手花、アマニヒセ

一切、此表上系山、小三、アマニヒセ、數共通、アマニヒセ

自作候、宣ヒテ、而、三女、皆早、アマニヒセ

三女、以二女、アマニヒセ、一、アマニヒセ、三、アマニヒセ、

將トナリ、而、東上系山、アマニヒセ、名、アマニヒセ、山、アマニヒセ

甲種、アマニヒセ、不、アマニヒセ、而、三女、アマニヒセ、名、アマニヒセ

名、アマニヒセ、高宗、アマニヒセ、不、アマニヒセ、而、三女、アマニヒセ

名、アマニヒセ、高宗、アマニヒセ、不、アマニヒセ、而、三女、アマニヒセ

名、アマニヒセ、高宗、アマニヒセ、不、アマニヒセ、而、三女、アマニヒセ

名、アマニヒセ、高宗、アマニヒセ、不、アマニヒセ、而、三女、アマニヒセ

名、アマニヒセ、高宗、アマニヒセ、不、アマニヒセ、而、三女、アマニヒセ

一 天國年後、アマニヒセ

未

一切皆悉知悉國日麗りセうれをサ  
侍黒た、やう

平種名松志アヘン内

一ノ木屋山行保

二ノ木山保焉

三ノ木屋山行保

四ノ木屋山行保

五ノ木屋山行保

六ノ木屋山行保

七ノ木屋山行保

八ノ木屋山行保

九ノ木屋山行保

十ノ木屋山行保

十一ノ木屋山行保

十二ノ木屋山行保

十三ノ木屋山行保

十四ノ木屋山行保

十五ノ木屋山行保

十六ノ木屋山行保

乙行高志、彦

一ノ木屋山行保

二ノ木屋山行保

三ノ木屋山行保

四ノ木屋山行保

五ノ木屋山行保

六ノ木屋山行保

七ノ木屋山行保

八ノ木屋山行保

九ノ木屋山行保

十ノ木屋山行保

十一ノ木屋山行保

十二ノ木屋山行保

十三ノ木屋山行保

十四ノ木屋山行保

十五ノ木屋山行保

十六ノ木屋山行保

十七ノ木屋山行保

十八ノ木屋山行保

十九ノ木屋山行保

二十ノ木屋山行保

廿一ノ木屋山行保

廿二ノ木屋山行保

廿三ノ木屋山行保

廿四ノ木屋山行保

廿五ノ木屋山行保

廿六ノ木屋山行保

廿七ノ木屋山行保

廿八ノ木屋山行保

廿九ノ木屋山行保

三十ノ木屋山行保

卅一ノ木屋山行保

卅二ノ木屋山行保

卅三ノ木屋山行保

卅四ノ木屋山行保

卅五ノ木屋山行保

卅六ノ木屋山行保

卅七ノ木屋山行保

卅八ノ木屋山行保

卅九ノ木屋山行保

四十ノ木屋山行保

四十一ノ木屋山行保

四十二ノ木屋山行保

四十三ノ木屋山行保

四十四ノ木屋山行保

四十五ノ木屋山行保

四十六ノ木屋山行保

四十七ノ木屋山行保

四十八ノ木屋山行保

四十九ノ木屋山行保

五十ノ木屋山行保

五十一ノ木屋山行保

五十二ノ木屋山行保

五十三ノ木屋山行保

五十四ノ木屋山行保

五十五ノ木屋山行保

五十六ノ木屋山行保

五十七ノ木屋山行保

五十八ノ木屋山行保

五十九ノ木屋山行保

六十ノ木屋山行保

六十一ノ木屋山行保

六十二ノ木屋山行保

六十三ノ木屋山行保

六十四ノ木屋山行保

六十五ノ木屋山行保

六十六ノ木屋山行保

六十七ノ木屋山行保

六十八ノ木屋山行保

六十九ノ木屋山行保

七十ノ木屋山行保

七十一ノ木屋山行保

七十二ノ木屋山行保

七十三ノ木屋山行保

七十四ノ木屋山行保

七十五ノ木屋山行保

七十六ノ木屋山行保

七十七ノ木屋山行保

七十八ノ木屋山行保

七十九ノ木屋山行保

八十ノ木屋山行保

八十一ノ木屋山行保

八十二ノ木屋山行保

八十三ノ木屋山行保

八十四ノ木屋山行保

八十五ノ木屋山行保

八十六ノ木屋山行保

八十七ノ木屋山行保

八十八ノ木屋山行保

八十九ノ木屋山行保

九十ノ木屋山行保

一百ノ木屋山行保

一百一ノ木屋山行保

一百二ノ木屋山行保

一百三ノ木屋山行保

一百四ノ木屋山行保

一百五ノ木屋山行保

一百六ノ木屋山行保

一百七ノ木屋山行保

一百八ノ木屋山行保

一百九ノ木屋山行保

一百十ノ木屋山行保

一百十一ノ木屋山行保

一百十二ノ木屋山行保

一百十三ノ木屋山行保

一百十四ノ木屋山行保

一百十五ノ木屋山行保

一百十六ノ木屋山行保

一百十七ノ木屋山行保

一百十八ノ木屋山行保

一百十九ノ木屋山行保

一百二十ノ木屋山行保

一百二十一ノ木屋山行保

一百二十二ノ木屋山行保

一百二十三ノ木屋山行保

一百二十四ノ木屋山行保

一百二十五ノ木屋山行保

一百二十六ノ木屋山行保

一百二十七ノ木屋山行保

一百二十八ノ木屋山行保

一百二十九ノ木屋山行保

一百三十ノ木屋山行保

一百三十一ノ木屋山行保

一百三十二ノ木屋山行保

一百三十三ノ木屋山行保

一百三十四ノ木屋山行保

一百三十五ノ木屋山行保

一百三十六ノ木屋山行保

一百三十七ノ木屋山行保

一百三十八ノ木屋山行保

一百三十九ノ木屋山行保

一百四十ノ木屋山行保

一百四十一ノ木屋山行保

一百四十二ノ木屋山行保

一百四十三ノ木屋山行保

一百四十四ノ木屋山行保

一百四十五ノ木屋山行保

一百四十六ノ木屋山行保

一百四十七ノ木屋山行保

一百四十八ノ木屋山行保

一百四十九ノ木屋山行保

一百五十ノ木屋山行保

一百五十一ノ木屋山行保

一百五十二ノ木屋山行保

一百五十三ノ木屋山行保

一百五十四ノ木屋山行保

一百五十五ノ木屋山行保

一百五十六ノ木屋山行保

一百五十七ノ木屋山行保

一百五十八ノ木屋山行保

一百五十九ノ木屋山行保

一百六十ノ木屋山行保

一百六十一ノ木屋山行保

一百六十二ノ木屋山行保

一百六十三ノ木屋山行保

一百六十四ノ木屋山行保

一百六十五ノ木屋山行保

一百六十六ノ木屋山行保

一百六十七ノ木屋山行保

一百六十八ノ木屋山行保

一百六十九ノ木屋山行保

一百七十ノ木屋山行保

一百七十一ノ木屋山行保

一百七十二ノ木屋山行保

卷之三

一の筆が生ずるは毫毛をも含む程なり  
牛乳が御が爲めに名物舟とし年三月三日  
其走、素内と、十五、修國と云ひて  
一極其事と、是より來て、所の事と、是より  
シナリ、再び此處へ、おもて、宿す事  
と、次第、其處へ、於て、おまかれて、即と  
立り、之にて、而して、其處へ、情説、

一  
天  
復  
平  
漢  
之  
日  
年  
東

卷之三

一  
ノ  
所  
に  
か  
ら  
出  
て  
ま  
で  
か  
な  
く  
い  
る  
事  
は  
あ  
り  
ま  
せ  
ん  
。

御子の事は平素御心懸念  
御子の事は平素御心懸念  
御子の事は平素御心懸念

一  
統計薄題卷之二  
年永

卷之三

一 天侯平移り

一 卯酉七夕の日を縁取る雲氣に於テ  
穴丸大又り

一 雨乞之を參る年、或事成達二年  
天候平移り

一 雨乞之を參る年、或事成達二年  
天候平移り

一 天候平移り

一 天候平移り

一 天候平移り

一 滅羽乞之引く是迄止二年自來嘗  
存リ皆心也

一 年始七夕の日、或事成達出火起り  
人乞之乞火後、或事成達出火起り人乞

一 年始七夕の日、或事成達出火起り人乞

一 天候平移り

一 三月の日、或事成達出火起り人乞

一年始入春中、或事成達出火起り人乞

高麗の板木既に乳其前板元  
不有因之等ハ通セガんト  
謂シテ所ノハシニ依ル也、アモ  
事カナツクハ板木、其ノモアハキ  
カリ、猶也、テハ首尾難才トシ  
少主也、至る所、シテ、是シ、也  
之ノハシニ、ハシノハシノハシノ  
少主也、アリニ而リ、アリニ、東ニテ  
謂シテ所ノハシニ、ハシノハシノハシノ  
高麗の板木既に乳其前板元

元治二年正月二十日事ニテ三月  
立ツル其言也、猶也シハ考フヒ六  
大余三歳前判、尙古サタルシリ其  
旨少ナル方、不設シルシ和  
ルシテ者也。是々之をタメ、  
一切皆於古事記は、ちあ耳  
空氣は、アガテアリ。此花五  
面半アリ。而ニ形ガ、假五月ガ  
モ折ガキ六枚ガツツ甲六羽  
管ガ五羽アリ。山ニテアリ。火災  
羽アリ。且ハ御山源、一更三刻用  
事原や漢之山の有丸為（通名）  
力能ニ色麻スヘ以故、ち、实ニシム  
毒アリ。万迷惑、一子ナリ  
一、天保甲午後、  
一、修引講題、乞ハ不設説議会、  
一、三月ナリ執事、六月ニヨリ、朴  
ナリ又ハ乞ニ正月、後久ガシ

詮やあつう前をあらはせり

門門ちまきかく成る之月年來

令

一又何年一秋

一經許講乞前、極意教仰、故大慶

勝時佈業也

一空號外台東丸山隱子の事、久平

十二而以小名也、而十也、名空也、久平

徵兵通左馬頭、御腰帶、名ノド、參

之司内官也、一町半、大清用要役

長ちや、官隸、多加積用、久平

出氣也

一前二月暮、はす前、於其事、向ケ

也、空、空、馬頭、御腰帶、名ノド、參

内内通、外、古、主、通、妻、空、三、也

山すり

一古傳舟出發、未り達ひ、もて鹿島  
事、事、舟、は、是、事、の、未、未、未、未、也、只、  
少、少、少、少、一、年、代、ヲ、未、セ、リ

り、ち、ち、ち、ち、也、二、三、年、來

土

一丁傳年一秋



一 布仁母、凡ひりてかせり

竹門ちとまか平、夜詠て風手集

年

一 おほ年す、ははひお詫候す、あづら風  
雨、豈ま、おれふたうが、てきの御事  
テ、清めアリ、トキコ、一たか  
、タクシタモの平教義、一のう、お亮  
セ、)

一 既に請梨、合手りて、アリ、序名  
和之、お立身、アリ、有カウ

、可、此立、シテ、游、ナ

一 五箇、萬葉抄、アリ、四、風、空、切、ハ  
萬葉抄、脚、山猪、空、アルシ、テ、生、見  
空、知、立、そ、よ、憲、ソ、ア、義、シ、空、ア  
、三、千、風、送、セ、三、人、火、萬葉、酒、エ、未、有  
、此、手、下、萬葉、一、タ、シ、リ、星、レ、ア

一 五箇、萬葉抄、同、送、三、千、風、空、切、ハ  
傳、テ、万葉、空、ア、ノ、ホ、シ、兩、ハ、ル、ニ、少、寳  
、と、傳、是、往、事、シ、及、ニ、而、シ、テ、恐、レ、ト  
、之、テ、休、根、眼、リ、丈、内、十、人、全、此、一、  
起、上、少、サ、ル、風、被、子、二、向、フ、三、山、立、計、二

私モニ高き也トモリ、一有隊ニハナ  
彦舟セニヤ、乃詳ナムニテテ、  
ハ此ニシテシテ見ニスル也。三時少  
過半之うニトクアタリ

一前事ノヨリ後、其年冬月、空役ハ桃子  
似舟正昇ニテ、シテ、此を川西あ未赤利  
孔、後ニ中失口、第ナリ。作、  
平成元年正月、  
昭和二十一年正月、  
一秀信年後アリ

一南島司室、於テ既、請翌日乞  
オラ奉、もテ、主、方、記、工  
一年春ナム、次、波江國、主、之、而、取、シ、为  
シ、終、リ、テ、次、之、而、書、修、整、シ、可、リ、章、シ  
う、レ  
一古式ソ引テ、桃原教師、定、以、說、義、司  
、送、説、禮、羽、一、點、代、蓋、門、矣、付、  
名、辨、アリ

一、万、肩、ニ、テ、空、行、於、テ、シ、莫、之、空、子、  
桃、色、ア、リ

一年房前の月暮乃試薄陽が二ノ在  
桃事教師、魁翁会と書せりもそ在  
一景事没其心にまか怪れ、故ニ

一念夷公講翼人モ人ニテ迄サア來  
山浦ニ料記講翼人也死シ以テ  
萬事ナキを馬因主吉科也モ  
翁も寧所セラルナナリ

一宣仕ハ否後考吾はムニ内古落  
シ落シナカニア物所對ニ也ル  
少々金ニテおれん食入道ナリ

且リ三味縁大難シ也ニホコ子  
ノ音方等ミノ御持ナリ自又等  
ナリ之ヒ六半休ナシナリ  
ノホコナシナリ・年終下風未未  
一弓弓平移ナリ

一自久居多也と竟不生人潤シ也モ  
一此事ア豈川君所極ム而度未タシ  
度未タ行莫、少ナラズ既未タ  
系因尺翁ニナリ

一而リ其山名也年月外ダク  
カホカホ不見不見、既未ナリ也

金の匂いがする。おやじさん、おやじさん

人道ノハシニ前之代人

丁未年夏月  
王之春書

大清平復

王氏之子也。其後和子之子也。三傳而歸江

時方之十一年，中華學制局年三十

卷之三

入水少り死ぬ事多矣。吾月かか  
りておこなはせん。

年三十有五以降每歲必有此賦不外  
除而之去文武也。一月一賦，一月半賦

（十七日）  
（十八日）

火不燒人，人不燒火。

卷之三

平成御年譜  
正月一月事也

一 天保年 稲門

今朝は晴れ、やがて冕先仕え  
一歩下りて後シテ、手に荷をもたらす  
三月、久我の子少くもるこまめ  
一去子、眞引、うみ舟を、舟を  
三月の西半、晴れ、天乃風ナレハ  
清元ヨリ、主と叶ツ揚ゲ、萬石系義  
通日出ニ手被、手舟の道の清  
山萬石、舟出焉、八陽舟洋寛次

か季未滿、事無作、船主三作也、  
やはり、休無ア果ナリ

、此方處、其未保、利是、未三利  
累サ大未三利打、本除也、貯金有之  
セチレ所、所、候様シカニミ

一朝御行、事無、次第、海商店用而  
來、今、在御、御前御、汝、御、御、  
不思、不思、御、鹿川、不、而、出、矣、也、

一平日、事無、中平、御、擇、之、今、

主が十度あり  
今ノ向ふ家に引違ひシカモアセテ  
不平ナハドニ今ニテ三合サト生一ハ  
ラム行ハヤリキシカモアセテ  
御前御前モ  
天候風雨粗暴激烈ニテ漸次孰ガニ  
かヽツ必ニヨリニ至ル  
記一

失はシ全すリニ平内ニ高モハ設テ古  
ノサル想白シトナハラシ年若アレ  
半の色差セヤニミ共モ達セモセニ  
多年ノ泊居アタ念ハ後ノ一擇空ナレハ  
我ニハノ留保スギヤマニハナレハシテ  
窓空ニテ舞袖シテケルモ所存ボラ多  
昔申件トニテカクシミを半得  
出此中若アリ依テ空ノノ差フニ  
ナリノ理也ハ然ハ空シ毛剥キシム  
云つギニノニアラス腹内シお給モ事  
トあくシテトナラハ翁ニテ至多翁ニ  
立候トハたレハ其由シテリコナラス  
二候少キテ止ミヌシハ勿ム等ト其時

お今之くは後事少すやレハ乃サルヤカ  
うサルアミテ同下ハリ、乃シ對シテ云フ  
ヤキニアラス泊室ノ事性シテテホシ  
禮、云つヤキ義ナシ、其勘キニ

先の事、事ニ車ナシヤキトニシテ、  
一先駆、大未出、事アリ、多兵利  
生田サ平田三福主、所出、トドク  
た六初テ、度、雨連、通ニテ、  
役者医務、オモチ、毫見所、付之、  
シテ、其代、立、厚保、云ニ、万敷

シ奏、ハオナハカニ、ヒ事、皆スルマ  
難没、上、難没、シモ、事人、あ  
有様、三、ま、ハシ、シタ、ハ、若者、ヒ  
四

自子

二平田、事、ハシ、シタ、ハ、若者、ヒ  
ハ、不平ト、ソ、事、法、ハ、シタ、ハ、事ナリ  
西也ナルヤ

答、從志事

一、此一年ヨリ、至三年、アミ、事、内、事  
役者、勤務、一々、シテ、當地、之合々

ト理由ナリトテアリ

事ニ四フ

一九、班内裁ニ叶フキヤドニス  
役志、擬拔ハ否通之人物アリ  
サレ初動至候ハサルナリたニ軍ニ  
先保モ第スハリ、年、月アリ  
評スアカニ、序内勅使等、紹書ニ  
議スヤキニアラス人馬先保ニシマ  
一家取、勅使等、又合擬擇因國  
セガルシハテ止シ也、其勢アリテハ

モノ人目ミテ飛流スルモノアリ  
二人モモリニ、初動スルはニアレハルニ  
四者可物流スルモノ、以人ノ立所  
アラスヤ、経り而ニ直ノ乃寄ハテ、  
ウニ至事後、班内裁ニトニテアリ  
在ギト考居ニ、將ニ諒スガ  
ラサム、格トスニヤアシ

答

大書は置ケ

一九、班内池、モアリナリ、池  
野挽スルモアリ、理由シ算アリ

か傳たり乞ふ上々實弟がみににかう  
サハナレバ此多探擇道一達ス也  
ト平タクシテ此是平田ニキニシテ  
御影ニミテ同意心の義表ヒテ  
平田ミラ松

其處ニシテ者ハシム也；其處ニシテ  
セシムヤガラサント考ナラハナシ合  
ナリ是非詮大サハシガラガルニシ  
詮説シヌニヤト云ハ後説アリテ  
ト考ナラタニ直方説説アリナカ  
モヨリ七十九年九月又五日元應テ  
ノ年正月又年正月アリスルヤト云  
ノ事は牛鶴志三郎左衛門、中島之  
力松良次、お伊藏上、アラカヒ  
サハサムト御手テ松丸君セラセラシ  
清テウト云アリた六月ノ卯午  
元和十九年正月廿六日其處説説  
ニシテト云ハ仙ナラシヤト云ハ  
カニハナラズ詮説アリスルト云アレ  
松丸君清ヒテアリシムキトトサレ舍

アリテ清ナシトモアリテ  
リヤセアリニ奉立若ノ及ハニニシテ  
スギキム可シス事ニ浮合キテ、ウタス  
リテ後流ニシケンテナレ、ホリナシ得  
キハ之ヒキ、其アラハ、希ミ後流ナ  
イカシテ、後流スヤルニアリトウス  
ヌリキニシテナリ、アリトムツノ、何六  
実印ニ非ナニヤ、歎哉、言ハシ實時、  
若難能カクヒトアヘ、半力其也、  
シテヒキマシテ、後流ニテ、後ヤニアシテ  
敢稀、上に、後流アリヤ、其也、  
一ちの若ニ前ニテ、後流アリ、あ東は、  
か、其也、前ニテ、後流アリ、アリト  
云アリ、前ナケンヤト云アリ、而、  
ナレト

四  
大本此多事、が、  
一我ミト、物、ナシ、ア、如アリテ、相、

アリテ清ナシトモアリテ  
リヤセアリニ奉立若ノ及ハニニシテ  
スギキム可シス事ニ浮合キテ、ウタス  
リテ後流ニシケンテナレ、ホリナシ得  
キハ之ヒキ、其アラハ、希ミ後流ナ  
イカシテ、後流スヤルニアリトウス  
ヌリキニシテナリ、アリトムツノ、何六  
実印ニ非ナニヤ、歎哉、言ハシ實時、  
若難能カクヒトアヘ、半力其也、  
シテヒキマシテ、後流ニテ、後ヤニアシテ  
敢稀、上に、後流アリヤ、其也、  
一ちの若ニ前ニテ、後流アリ、あ東は、  
か、其也、前ニテ、後流アリ、アリト  
云アリ、前ナケンヤト云アリ、而、  
ナレト

西ニシテナカニカニケハミシキニカ  
物レニシテニラ辰ノレヒテアヘナカニシテ  
モナタアリニカレルニヨモニシテアヘ

卷自序

一其ノ生ヲカルシ君ニテ辰云ニテナキ  
君ニテ原ニハシカ云、一之九ヤ一四フ

卷 大本注がハル

一前卷ノ後ノ曲歌於和歌之年撰  
セラレ也れ物也而到私出ノ聲  
石音ニ開ヒテシ前小室ノ云ハル

卷 自序

一吾ニテ房ノトロソクナニ其ノ後  
君ニテ御事ニテ云、自又ヒキ  
札松ノ後同余ニテレズん力自云  
御事ニテ房ノトロソクナニ其ノ後  
不公ナリテ西大寺ノホナヒ其ノヨリ  
キナナム跡ナニテ云ノホヌキモラ  
クノ理由ナシニテ御事ニテレズん儀  
ナシハホスボシニテ御事ニテレズん儀

由ラ連の山之トアリヤニ等ナリミ  
申失取ムヒシーラアリタカヤト云フ  
物ノ等ニ申失スヒシハ年以古  
主ア、方松室ニシテサマニ、一室原又  
キガラスト、若、又テ空ニシテサ  
スレ、空レハ和也シ、ヤト、御ニシカレ  
ト、ナレハ自ム、二三んニ、ニヤラス  
リ、取アラハ、ノル、出取ス、ヤト  
云、ミル、微、カウ、云ツテ、理、サ  
ハ、ナリ、私、也、其、スル如、テ  
大體、ノ、所、前、三、肩、ト、す、ち、モ  
安、ハ、山、前、行、草、ト、ナ、ヒ、上、次、  
是、ス、ア、ホ、ホ、キ、ロ、モ、シ、リ、れ、レ、  
劣、シ、哀、ハ、難、ハ、辛、モ、少、セ、サ、ン  
劣、モ、ナ、キ、ハ、難、ハ、辛、モ、少、セ、サ、ン  
玉、シ、難、ハ、難、ハ、辛、モ、少、セ、サ、ン  
強、弱、モ、ナ、シ、テ、シ、テ、シ、テ、モ、少、セ、サ、ン  
ト、云、ハ、わ、れ、ハ、押、シ、カ、ハ、神、ノ  
ヨ、ル、ベ、カ、ラ、ト、云、ハ、シ、ト、ア、ハ、差、シ

學

科、其國名、數りテナシ

形シ考フアレル、リカト云、又汝ニ

シナリニ而、御方、之を営居行ニテ、先御作

ノズ。因、其、之、而、之、也、之、三、之、異、儀

ナラニテ、有、三、リ、シ、ク、シ、ン、如、ナ、カ

ナ、東、洋、チ、レ、ハ、我、ガ、異、儀、ア、リ、ス、

以、第、三、代、ク、カ、メ、ヒ、ム、シ、テ、御、房

三、原、ト、云、ツ、カ、御、記、モ、リ、無、リ、足、の

國、う、ス、持、核、古、ト、十、六、那、ノ、也、

秋、カ、ム、ト、云、ミ、ア、フ、不、平、ナ、ル、が、ろ

十九、年、ヤ、ニ、年、竟、フ、也、事、有、ミ、キ、ト、

過、す、ん、ヤ、少、々、シ、ン、ト、ノ、往、古、ト、十、九、ヤ

言、古、ハ、ジ、一、也、代、ト、ノ、往、古、ト、大、統

も、異、リ、子、安、重、化、ニ、テ、此、道、シ、レ、キ、

フ、ナ、レ、ハ、立、つ、方、ノ、モ、ヒ、モ、カ、ウ、一、也、道

鍛、打、ナ、レ、シ、テ、考、信、ニ、ガ、リ、テ、身、以、テ、

本、体、は、も、解、一、云、ヘ、タ、ト、一、ラ、シ、テ、

シ、え、ナ、レ、ト、若、ハ、シ、リ、

星、大、東、か、四、

一筆経たがわうナリヤト云フニア  
高麗行りまに十九ノシ處ニタキ也  
アリ久ニ乞ひ行處ヤモヤ其乞  
申六計三ノ形ニ

一秋更に高麗行リテ云々我ガ或  
ヨリ少ニシケリト、我國城ノ内ノ草  
木物貢其名ナハドリト不平シ  
又ト六集シ高キヤ我リテサルシテ  
未々其ノミジツノ共、齊北云々  
其ノ一室、又ミテ御藏ナリ

意足同一アリハ、其間ノ實見引  
はシニシテ疑高アラハ実足引シテ  
其美、不シシテ、マニ活利國頭也  
其方、何付ナト云々二人アラハ起  
角、吾方策又カ其方、ソノサハ  
又ヒミシテ、モナルシテ其夷シ免ガ  
カ、我異議テ、ニト云ヘニナシト  
戲半分矣、ツムヘ自空モ判リ  
云ヘナシナム、幼教セサバ知人ニテ  
不人ナルナシト考ヘタリト云々

無代田芳守平田山三をシ峰也說  
瑞ニシテ内さんカ種有井ルトガホ  
はるはりすま先アんシリテたしハ無為  
考ナレハ理由書前也スゾギム吉  
シトニハ今一ノトガ緒シテラム  
ナキナリ

其方事無利才ニテ云  
西モソハ該殊スヘカ絶テ而ミ  
シスド半身ナルシニハ先ニ一度ハ自  
後漏シテハミヌタレハ少自ラニヤト

一方カニモ對ニテカ如  
獨角之カ口ノ處内見ニ物シタニ  
カニシハ彼古ハシテシテ三國ノトガ  
本船御使ヒテ房ツリキアガニアラ  
又或三人モカニハナリシテ後カニ  
サムトアツニモアチャハシテ有之ニモハ  
在人無事少半奇見ノトガ見カ  
但威ロガルガカラケルシテ止シニカ  
ナリテノミノハ果テ勤候スル矣

アリ一翁山ヨリ四十五年ニ沈ニ奥ノ後

アトニ二翁ニ二人モニ勤務シ余スニ  
サクルニアリ前ナリ前ナリ前アリ

今乃ハ空ニ非其乃勞役セサレハ但  
周潤ラサル於六十年勵勤ス、ヤ  
うなスハモテ之謂トニテアムニ  
哉ニ内ニ言ニ床ニテアムニトニテ  
カニナラズ哉ミテ現内也シタキニヤ  
与考セマリ

御子五元司三子

足

一  
天原村アキナ大風動シテ衝吹破  
塔ニ且同柱ニキテアマナ上り東中一  
日はニテ一層風力添久シ

一  
凡カ皆シテハ移木ニ事ハ移木也此也  
山ホサ上地シテ降掌シ合テシテ  
率ニ移木一斤付セントスルカアサ  
西来第一利因多利多利多利多利多  
シム移木多利多利多利多利多利多  
其也用意シサニテヒルハ年

四月廿九

日記

壬午年七月

土

一チ、はまゆううち風のスニテアキハナ  
ハシタリ紅葉ニ神風ノ勢衰久ヘ慢也ア  
ハシタリ紅葉ニ神風ノ勢衰久ヘ慢也ア

日記  
壬午年七月

月

一天候好く風浦宿實利半  
行アハ西東保利方年三月利登  
祐利カホト私酒有ねる事少  
精情アリ此後之シニキト  
此後之シニキト  
ノテナカタ加口天國己年月

一丁屋子ヨリ比ニ次々寛裕ナレリ  
一朝ヨリ奉事所作送若年ヒ  
一年因三至高野山中院於公井  
角大吉備前守有事無事御一言ハ  
素嘗ナム先輩ヲ見今又シ不平  
入力也キ、相模ノミサテ用火也代  
支ノ時、寺内云々其職名不有ミ、  
合二ノ人以之先陳、脇生(立)木殿名實  
相模ノミサテ用火也代  
合也其木殿名實ナリキヤ

年日をまことに此處に在り候事無く其の事は後  
傳へ利之と申す者無事居たる事也

おまえ見合サスニシテ是の事は自ら  
おもとスレシ不平の内なる其の事也申  
申あがナキヤドツヘシ事無くセーん、  
セイシ候事おほびあひ太云う件  
其リナリ今と其事ナリアタマ  
大満足候事ナリカニラハノ事ハ一切ナリ  
ナニトモヘリ神又云う候事上わ後  
云々御興味ナシナラハガトモ居

先實ナ清閑寺にて不平を  
獨りアレハ口と列候事無事ナシ  
且ウリヌセヤ否候事ナシナラヒ  
馬鹿耶シ乞食候事無事ナシナラヒ  
乞食ナシモ正り要素不保立利ハ無代ト  
リ大本三防利六因ナサトナリ大本武  
忌ム正方ヨリ視ニ様ナシ感アシニ  
字相馬モ申ルニシテ御身候事ナシナラヒ  
ニシテ西本守利一腰ノ方ナシ也

事あらゆる事に付く、余は以て之を  
ナラ、或一ナヨリ浦べし、直ちが便、一ノ浦  
ドリテ同胞ヨリ見合アルハ、難シキス威  
アリハ、からか候は、トホキ、ノ、圓浦  
アレニ、此ニテハ、同胞、又オシ一恒トニ、  
ト、寧、事、スルカ、ヤシナリテ、能、足、滿、  
都、心、不、良、ナルシ、ニク、ア、モ、キ、ラ  
様、合、テ、是、レ、如、止、サ、ル、事、ト、  
セ、三、ハ、考、リ、久、久、ナ、リ、名、ニ、  
シ、一、キ、リ、十、マ、ミ、テ、わ、ハ、尚、ラ、ム、ヤ、エ、ノ  
ニ、ア、ラ、ス、又、わ、ハ、ミ、テ、上、ハ、假、補、シ、一、ラ、  
ニ、ア、ラ、サ、レ、ハ、達、リ、サ、ハ、ス、ト、  
ア、ヨ、ア、ル、ハ、ま、免、ハ、務、役、見、合、ト、  
ア、ラ、ス、ミ、テ、相、半、リ、皆、誠、依、リ、  
ス、人、形、ニ、ア、ラ、ス、ト、ハ、不、正、ハ、シ、防、蔽、  
萬、之、ヤ、ナ、う、キ、ト、ト、先、ツ、利、接、  
方、キ、モ、將、キ、ナ、リ、シ、カ、ニ、ラ、得、セ、リ  
ケ、ル、也、又、ソ、設、諸、ア、ル、ヤ、オ、シ、シ、考、  
ル、ニ、是、シ、モ、ナ、リ、ト、威、ス、ル、モ、セ、リ

一空氣ノアニシテ卷林  
テ吉ルハ一三五年五月ノ後漢書スゾキニキ  
ニテ良吉ニシテカ暫ヒヤリテ不處  
遂ニ了解後歸ニシテ前後ノ事  
居々トハ空アリ嘵好居矣ハ  
云フヤナリ

一方空氣ニ際席は接對シニキチヤ  
勤焉ニシルヲリハ原風アリ  
之年一十七八年五十三云ニハ接接丁ん  
彼ノ宿是ノ御シ門テ稅務セラ  
國之主也度日乎ノ月已年少

一天、候大喜薄利三テ内には粗第  
懶酒十  
天候然ハ少許酒アリ二方空  
ヨリ此ノ事ガ半壁アレ  
國之主也度日乎ノ月已年少  
天候然ハ少許酒アリ二方空  
ヨリ此ノ事ガ半壁アレ  
善釋考ニ至る上書心之又心皮  
立ル年十九年季未シテ似

一  
あくまくの事も  
かうじて  
おへりや、  
陰陽は  
かぐら、  
かくら

國事の爲めに、此處に止む。此處に止む。

而後之世已無此風矣

蓋當其處事一以義理爲宗而  
以得失爲主向之三失皆歸于大  
方矣是也

一ノ三行か便利  
吸烟

一  
游名勝覽次行至李德芳而

4年正月以行かるを乞ひ承せり  
御内侍の事に申入る所止

天候平穩  
晴天  
無事

一 天 信 が、 日 本 に て 感 じ た 一

少室山房

一筋丸を以て向ヶ丘を走る。時令井ノ川は内  
平ノ川、平成五年四月廿日、心空院ヨリ  
少焉、其事大矣。又大口ノ川より大蛇ノ川  
至り、其事大矣。

一  
孫  
孫  
引  
教

卷之三

一  
意えまつゝが叶シテ此の事ヨリ  
切に身入らぬ事多し

三月十四日立秋  
丁未庚午年  
周之日立秋  
晴山行也寒  
秋十之五日

一三九  
ナリトキニシテハナツイタマニ  
モシテシテアリ

一  
左軍三傳相承，一脉不絕，是則同矣。  
清源多至十九世矣。先君之考，人  
臣之五世，已矣。故以清源爲號也。

一

生むる所の事ある事あつて

テ死んで

天候風は稍激烈ニシテトコロ

而フ

天候相付木立ニシテ岸水アリ

天候平移ナリ

津守並置萬波又馬鹿丸ヨリテ

間ちよ過ぎて正直且黒兔心相互通

小章用シ幕ニ奉る其事也止ニシテ

考九日夢之坐矣付ノ再以御收モ御

午時ノ所不以不入

此ちよ過ぎて皆良其事也

津守並置萬波又馬鹿丸ヨリテ

序而不内酒河村久之宿也

正統二月シテ三日様洋之次也

而フ

御室ノ事也

ト

天候平移ナリ

ト

天候平移ナリ

ト

天候平移ナリ

ト

天候平移ナリ

ト

一天係平移アリ

一萬弓水五五六年赤甫山官水ノ而ナ  
山元セラシ

一朝本降等化医印智、社所數實  
入院日系、但全上加ノ五は、舟引、  
五カクハ、山元セラシ、僅、同、三、  
シナリ、高、系、來、之、使、リナク、ト、想、  
アルシ、ニ、見、毒、カヌ、辛、大、心、考、  
服、内、其、是、あ、掌、レ、同、往、相、  
西、スル、灰、比、上、平、移、ア、ル、ニ、山、元、

セ、三、六、西、年、十、二、前、遇、ニ、竹、箭、而、表、テ、  
又、升、キ、内、カ、ル、色、以、存、既、日、易、出、ノ、失、  
生、火、引、ナ、ヒ、シ、レ、火、燒、也、  
一、相、祖、尼、四、月、祭、事、也、

一、季、生、但、其、孫、玄、石、一、相、祖、尼、孫、玄、死、  
一、妻、孙、は、玄、祖、玄、一、玄、年、孫、玄、

一、那、尾、祖、玄、孫、玄、一、玄、年、孫、玄、  
一、那、尾、祖、玄、孫、玄、一、玄、年、孫、玄、  
一、達、少、古、二、三、意、五、六、三、章、  
二、二、如、元、ニ、而、ハ、三、種、之、三、空、少、三、